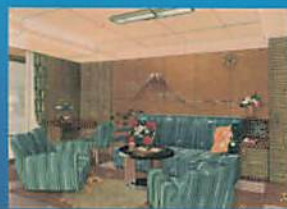


海事博物館企画展



神戸からの船出

～近代日本・貨客船の光彩～



2024年
7/19 (金)
2025年
5/16 (金)

来館のご案内とアクセス

■開館日：月・水・金の13:30～16:00(祝日を除く)
ただし、8/3(土)～8/18(日)、
12/21(土)～1/13(月・祝)は休館

■入館料：無料

見学のお問い合わせ・連絡先

海事博物館 Tel: 078-431-3564

(博物館事務室は上記の開館日と開館時間に同じ)

<http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp>



阪神電車を
利用される場合

深江駅から南西へ
徒歩約10分

◀左記地図を参照

市民セミナー(深江キャンパス梅本ホール) 11月30日(土) 開催予定



神戸大学

海事博物館

海と船の過去、今、夢ある未来が詰まった博物館

神戸大学海事博物館20周年記念

(1958年 神戸商科大学海事参考館、1967年 同海事資料館、2003年 神戸商科大学・神戸大学統合、2004年 神戸大学海事博物館へと改称)

主催：神戸大学海事博物館

協力：一般社団法人 海洋会

協賛：阿南市 海神会



▲神戸からの船出(現・第三突堤より出港中の「うらる丸」)

神戸からの船出

～近代日本・貨客船の光彩～

Kobe

1 貨客船の時代

日本では幕末から明治時代に汽船が新たに登場し、大正時代までに貨客船の時代が訪れます。蒸気船、次いでいわゆるエンジン(外燃機関や内燃機関)を備えた貨客船が次々と導入され、外国との貿易や国内輸送に能力を発揮しました。さまざまな商品取引が世界中でおこなわれる国際社会において、船は海をまたぎ、目的地まで安全・確実に多くの貨物や人間を輸送し、情報の伝達をも担ってきました。



▲浮世絵をあしらった船内メニュー・カード

2 航路:日本から世界へ

日本の近代化において船は不可欠な存在であり、世界情勢に足並みをあわせ、大きな役割を果たしました。中国などへの近海航路の充実に加えて、ハワイ・南米への移民船の需要も高まり、海外への定期航路が拡大してゆきます。アメリカやヨーロッパへは新鋭の大型貨客船が導入され、幾多の人と物を運びました。日本の船が行き交った北米航路、欧州航路、南米航路、大洋州航路、アジア航路や極東航路を紹介します。



▲戦前の客船旅行者

▲豪華客船における特別室の内装
(完成予定図)

3 船旅:人とサービス

空路が未発達な時代、人の移動は海路が主流でした。航海の目的や寄港地にもよりますが、船旅は数日から数ヶ月におよびました。船客にとって船内での生活はとても重要であり、船の運航会社は船旅を快適に楽しく過ごせるように、船内での日課をさまざまに工夫し、盛り沢山に用意しました。貨客船の華やかかなりし頃の様子を、当時の資料からたどります。



夏休みワークショップ ※いずれも詳細はHP・別途チラシをご参照ください。

タオルアニマルを作ろう 7月29日(月)・8月2日(金)の午後、事前申込制、参加費あり

自由自在なロープの技 7月22日(月)・24日(水)・26日(金)・31日(水)・8月19日(月)・21日(水)・23日(金)の午後、当日受付、参加無料

背景写真: 大正12年頃の神戸港「諏訪山より神戸港を望む」「神戸港大観」神戸市役所港湾部、1923年(部分)

展示資料: 写真絵葉書「神戸港の突堤」昭和前期(提供:フォトカフェ)/写真絵葉書「神戸港・吉野丸客室入口」昭和前期/客船メニュー・カード(夕食用)、熊丸丸、1932年/客船ポスター、大連汽船株式会社、1935年/記念絵葉書「世界一周航路新造船あるぜんち丸特別室」富士、1938年(特記以外はすべて神戸大学海事博物館所蔵)